

【プログラム16: やってみよう、聞き方エトセトラ ～今日からあなたも聞き上手～】

☆ねらい：思春期の子どもとのコミュニケーションの取り方（会話）
について考え、子どもと話をするとき役立てていこう
とする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	わが家の聞き方
時 間	25分
人 数	何人でもできる。
活動形態	ペア＋グループ
準備物	補助シート
主な活動	①いろいろな聞き方のロールプレイをやってみる。 ②会話をするときの大事なポイントについて考える。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○同じような場面設定であれば、例示のシナリオは各自で変更してもよい等、弾力的に扱う。
備 考 (アレンジ等)	○「お薦めしたい聞き方」を出し合い、その聞き方でのロールプレイングを行い、ねらいに迫っていく方法もある。
他プログラムとの関連	スタート（乳幼児期）編：No.6 上手な話しの聞き方～聞き上手は子育て上手～

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「わが家の聞き方」をキーワードに講座を進めていきたいと思えます。

・キーワードの提示。

2. 子どもとの
会話を振
り返る

○昨日、子どもさんとどんなことを話しましたか。一日の会話で、いくつかの話題があったか思い出してください。その中で一番盛り上がった話題は何でしたか。(しばらく待つ)
一日の中で、どんな時に子どもさんと会話をしていますか。(しばらく待つ)
※時間がある場合は、何人かの例を紹介する。

・子どもとの会話は「昨日」と特定しなくてもよい。

3. ロールプ
レイングを通
して考える

(補助シートの配付)

○これから2人組になって聞き方のいくつかのパターンをやってみましょう。それぞれ親の役と子どもの役になってもらいます。親の聞き方によって子どもはどんな感じを受けるかを体験してください。

初めは、シートのアのパターンです。アは、聞き手が他のことをしながら聞いている場合です。補助シートにセリフが書いてありますが、自分で考えてもいいです。

(やってみる、次に親子の役を交代してやってみる)(ペアを変えても変えなくてもよい)

次はイのパターンです。イは、まだ話の途中なのに、聞き手が話を切ってしまった場合です。やり方は先ほどと同じです。

(やってみる、次に親子の役を交代してやってみる)(再度ペアを変えてもよい。)

最後にウのパターンです。ウは、聞き手が、自分の話より先に、「自分の時は～～だった」とか、「◆◆になるんでしょ」と言ってしまう場合です。これもやり方は先ほどと同じです。

(やってみる、次に親子の役を交代してやってみる)

どうでしたか。子ども役の時、親の聞き方でどんな感じがしましたか。

・時間が不足する場合は3つのパターンから1つ選んでロールプレイングをしてもよい。また、話し手が安心できる聞き方を考えて聞くというロールプレイングを取り入れてもよい。

・例示のシナリオを読むことに集中しないように、セリフはかわってもよいことを伝える。

4. 大事なポイントを考える

○これから、会話をするときの大事なポイントについて考えてみましょう。自分の家庭で、特に大事にしたい「わが家の聞き方」は何ですか。このことについて考え、グループの人に紹介してください。今、自分が話を聞くときに大事にしていることやこれから大事にしたいこと等、どちらでもいいです。

・ロールプレイで感じたこととつなげて考えるように声をかける。

○グループで話題になったことや自分の考え等を紹介してください。（進行役が全体に紹介してもよい。）
※紹介してもらったことが、活動3のロールプレイに活かせるような内容だったら、ロールプレイのシナリオを使って紹介してもらおう。

5. まとめ

○話をする時、聞き手の姿勢や態度によって、話し手の気分が左右されることがあります。みなさんはそのような経験はありませんか。
子どもが話しかけてきたとき、子どもが、「話してよかった。」と感じる聞き方（能動的な傾聴）が、親として大事です。
子どもがいろいろな活動等で朝早く登校したり帰宅時間が遅かったりすると、あまり時間を共有することができにくくなこともありますが、親が機会をとらえ意図的に話しかけることも必要なことです。

・子どもとの会話だけでなく、家族や職場などいろいろな人との会話にもつながっていることにふれて話してもよい。

【やってみよう、聞き方エトセトラ～今日からあなたも聞き上手～】

補助シート

◇ロールプレイングの例

ア：聞き手が、他のことをしながら聞いている場合

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。思っていたよりいい結果でね。とてもよかったって思っているんだ。すごいでしょ。

保護者：※携帯をさわったり、本を読んだりしながら、話を聞く。

そう、よかったね。

子ども：(自分で考えたセリフを言おう)

イ：まだ話の途中なのに、聞き手が話を切ってしまった場合

場面：先日あった小テストの結果が返され、思ったよりよくなかったことを話す場面。

子どもは、小テストの範囲を自分なりに勉強したつもりではあった。自分でも、もうちょっといい結果になると思っていた。

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。

保護者：えっ。そうなの。結果どうだった？

子ども：うーん。あんまりよくなかったんだ。★テストの前には勉強したから、もっとできると思ってたのに……。だから次は、もっと頑張ろうと思っているんだ。

保護者：※子どもの話の途中（★の所から）から言い始める

どうしてできなかったの。勉強がたりないからよ。携帯ばかり触っていたからじゃない。次はいい結果になるようにがんばりなさいよ。

子ども：(自分で考えたセリフを言おう)

ウ：聞き手が、自分の話より先に、「自分の時は～～だった」とか、「◆◆になる
んでしょ」と言ってしまう場合

場面：先日あった小テストの結果が返され、思ったよりよくなかったことを話す場面。
子どもは、小テストの範囲を自分なりに勉強したつもりではあった。自分でも、
もうちょっといい結果になると思っていた。

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。

保護者：えっ。そうなの。結果どうだった？

子ども：うーん。あんまりよくなかったんだ。テストの前には勉強したから、もっ
とできたと思ってたんだ。

保護者：そんな結果だったら、補習を受けたり追試になったりするわよ。お母さん
の時は、小テストでも結果が悪かったら、親から怒られたり宿題が増えたり
大変だったのよ。追試いつなの。もっと真剣に勉強しなくっちゃ。

子ども：追試とかないよ。

(自分で考えたセリフを言おう)